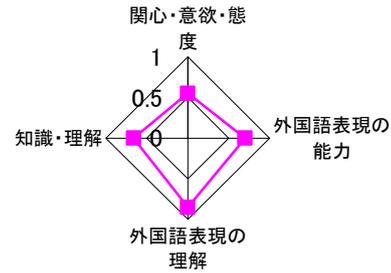


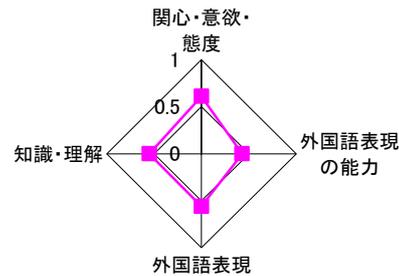
内容別・観点別の分析 (様式2)

1年		観点別平均達成率
関心・意欲・態度		55%
外国語表現の能力		70%
外国語表現の理解		85%
知識・理解		66%



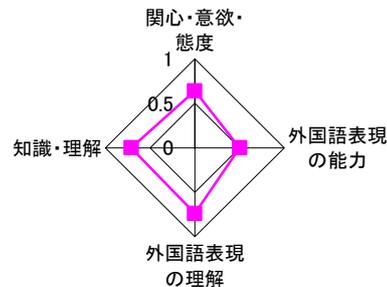
定期考査及び7月までの指導状況の分析

2年		観点別平均達成率
関心・意欲・態度		61%
外国語表現の能力		43%
外国語表現の理解		56%
知識・理解		55%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

3年		観点別平均正答率
関心・意欲・態度		64%
外国語表現の能力		50%
外国語表現の理解		74%
知識・理解		71%



定期考査及び7月までの指導状況の分析

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画 (様式3)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	話すことに対しては躊躇せず、積極的に進めることができる。Activityなどにも意欲的に取り組んでいる。書くことに対しては苦手意識をもつ生徒が多く地道に努力することを呼びかけていくことが必要である。	・挨拶や簡単な会話など帯活動として引き続き授業に取り込んでいくことで表現能力を高めていく。 ・単元ごとの単語テストを通して基礎的な語彙を身に付けさせる。 ・英作文などをできるだけ取り入れて自己表現力を高める。	・長期休業中の補充教室を通して、今までの文法の復習を行い長期休業後の授業への足掛かりとする。 ・SpellingContestを行い、各自が目標をもち取り組めるよう指導しモチベーションを高める。 ・PairでのReadingや会話ではPlus1の活動をするよう促す。
2年	1年から引き続き、Unit毎に単語テスト、リスニングテストを行い単元の振り返りを行っている。しかし、外国語の表現能力がほかと比較低いので、話したり書くことの指導に力を入れていかなければならない。	・自分のことを英語で書いたりすることをWritingPlusを通して練習し、抵抗がないようにしていく。 ・ALTを活用して、自分の表現したいことを相手に伝えられるような機会を多く設ける。	・都の学力調査では正答数がかかなり低い生徒もおり、補充教室等を通して、1年から今までの文法の復習を行い、また語彙力強化のための指導を行っていく。 ・SpeakingTESTや暗唱テストでは一人一人に合わせたテストを行えるようにする。
3年	区の学力調査で全国や区の平均正答率を大幅に上回っていた点は高く評価できる。しかし外国語の表現の能力がまだまだ低い点は大きな課題といえる。	・Speakingに関しては①自分の思いが込められるような内容を用意する。②間違いを恐れない気持ちを育てる。③基本文の充実を図る。 ・Writingに関しては①単語力の充実を図る。②生徒が書きたくなるような題材を用意する。③ALTを活用し生徒の英文をチェックする。	・長期休業中に補習教室を開催し、1、2年の文法事項を復習する。 ・Outputの活動においては3段階程度のレベルを用意し選択させるなど生徒の主体性を最大限引き出し取り組ませる。 ・Speakingの発展的な内容としてはジェスチャーや表情、文のスピード、抑揚などにも留意させ取り組ませる。